



RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE

2025.4.1



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。
そして、在学生のみなさん、進級おめでとうございます。

ボランティアコーディネーターの齋藤です。

この時期、多くの立教生がボランティアセンターを訪れます。ボランティアサークルの新歓活動も活発になりますね。そんな中で、よく耳にするのが、「ボランティアって何？」という疑問。

みなさんだったら、どのように答えますか？

自己犠牲？タダ働き？意識高い系？...学生同士の会話の中では、経済的な損得や就職活動における自己のアピールの道具としての側面を取り上げて、冷笑的に語られることも多いかもしれません。

ボランティア活動と称される取り組みやその現場において、そのような事実があること自体を否定することはできません。ただ、果たしてそれをボランティア活動として捉えて良いのかという疑問が残るように思います。実は、その実態は「ボランティア活動と呼んでいるけれど、実はボランティア活動ではない、悪質で消費的な何か」かもしれません。

さて、立教大学ボランティアセンター（立教ボラセン）でも様々なボランティアプログラム・プロジェクトを開発し、運営しているわけですが、それらには前述のようなものと大きく異なる部分があります。

それは、“あなた”が関わるということを大事にしているという点です。「とにかく大勢の学生を動員したい」ということを考えているわけではありませんし、「大学生なら、若者なら誰でも良い」ということでもありません。

一人ひとりの価値観を大切にしながら、その場で生じている課題をそこにいる一人ひとりの考えをもとに、解決しようと取り組む。それが、立教ボラセンで大事にしているボランティア活動のあり方です。

ボランティアのキー概念の一つである「自発性」は、「やりたいからやる」ということと同時に、「やりたくなかったらやらなくていい」という前提を示しています。そんな中で、様々な想いをもち自発的に参加の一步を踏み出した人々がチームになり、共に取り組んでいくわけです。

複数人になると、「ボランティアさん」「大学生さん」と、一括りにされて呼ばれることもあると思いますが、立教ボラセンでは、あなた自身の名前で、紛れもないあなた自身として、地域に、社会課題に深く関わられるようにコーディネートしています。

誰かの日常とあなたの日常がつながると、様々なことに無責任ではられません。しかし、きっとそれが、「世界が広がる」ということなのだと思います。お金を払えば一定の楽しさが得られるサービスではありません。自分自身の関わり次第で、そのおもしろさが高まり、広がります。

そんな活動のフィールドへ、私たちと共に一步踏み出してみませんか？

齋藤 元気
(池袋キャンパス ボランティアコーディネーター)

各コンテンツの詳細や写真は、ボランティアセンター公式【note】からご覧ください！

https://note.com/rikkyo_volunteer/n/n7cb453a39967?sub_rt=share_pw

**** 今月のCONTENTS ****

■ボラセンからのお知らせ

【1】ボランティアオリエンテーションを開催します！

【2】まもなく募集開始！「立教チームで活動する1dayボランティア」って何！？

【3】『2025年度版 ボランティアガイド』が完成しました！

■ボラセン活動レポート

【1】伝統あるプログラム『農業体験 in 山形県高畠町』で、民泊が復活！！

【2】新座市をアツくする！！『大江戸新座祭り』の運営を立教チームの学生ボランティアがサポートしました！

【3】子どもを安心して預けられる場所を創ろう！子ども服マーケット in Sunshine Cityに立教チームが参画しました！

■RSLセンターからのお知らせ

【1】オフィス移転について

【2】2025年度春学期開講科目のご案内

■陸前高田サテライトからのお知らせ

【1】オフィス移転について

【2】2024年度春季陸前高田交流ツアーを開催

■□■ 巻末コラム ■□■

立教大学へのご入学おめでとうございます。そして、ボランティアセンターへようこそ。わたしたちは今、立教大学開学151年、ボランティアセンター開設22年目の春を迎えています。立教大学は開学以来、「真理を探求すること」、「他者と共に生きること」を大切にしてきました。ボランティアセンターは、とくに後者の「他者と共に生きること」の実践部局として、その立教の建学の理念を支えつつ、たくさんの学生たちが真理探求の扉を開く手伝いをしてきました。

「共に生きる(共生)」という言葉は、心地よく耳に届きます。しかし、実は「共に生きる」ことほど、困難でChallengingなことはありません。なぜなら、「共に生きる」とは、自分とは異なる他者を、つまり「異質」を受け入れること、そして、そのことによって、自分を変えられて往くことだからです。共生社会の基本は、相互的な「Charity(愛)」にあります。立教が「共生」について言及するとき、そこではつねに、「隣人を自分のように愛しなさい(マタイによる福音書第22章39節)」とのイエスの言葉が意識されています。立教の理解する「共生」とは、「あいおい(相生)/相手を生きる」ことです。そのような「わたし」と「あなた」との間での、存在(いのち)の互換、創造的な相互連関が生まれ出ることをわたしたちボランティアセンターは信じていますし、そのような体験を皆さんにはぜひ、立教で学ぶ間に体感してもらいたいと願っています。良い出会いは良い人を創ります。それは揺るぎない真実です。ボランティアセンターはその入口です。スタッフ皆で、あなたの「相手を生きる」、そのお手伝いをします。

中川 英樹

(大学チャプレン／ボランティアセンターセンター長／立教学院副学院長)

立教大学ボランティアセンター

池袋キャンパス(5号館1階)・新座キャンパス(7号館2階)

開室時間: 月～金 9:00～17:00

▼ボラセンWebページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

▼メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

▼X (@rikkyo_volucen)

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

▼Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

▼note

https://note.com/rikkyo_volunteer/

▼YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCo5eBf_CcveSsRAccG5rrzw

配信停止を希望の場合は以下のGoogle Formを送信してください

<https://forms.gle/PRuubMtYvuHVfKoG8>

(C)2019 RVC all rights reserved.
